

つどい

第52号

〒544-0071
大阪市中央区常盤津二丁目一〇番五〇号
TEL 06-6214-0753
FAX 06-6214-0755
一般社団法人 関西常磐津協会



一般社団法人 関西常磐津協会
理事長 常磐津都毘蔵

中国、武漢市の集団発生から始まったと言われる新型コロナウイルスは、またたく間に世界に広まり、国内に於ても各都道府県の感染・死亡の数は多く、日本経済に与える影響も甚大なものとなっております。

私たちも感染拡大を防ぐ三つの密を守るべく不自由な生活を余儀なくされ、観客の入る会場での演奏も出来なくなり、芸の継承もたいへん困難な状況におかれております。

今年十一月十五日(日)に昨年同様「公演会」「ときわぎ」「ときわづキッズ」の同時開催を京都市国際交流会館にて行う予定です。特に「公演会」は八十回という節目を迎え、会員一人一曲にて名曲

に挑みます。当日を迎えるまで、何とかコロナウイルスが終息に向かつていくことを願って止みません。

皆様におかれましては、体調に充分お気をつけられ、ウイルスに打ち勝ち、公演会では観客席で舞台を楽しんでいただけるよう、協会としてもその為の努力を引き続き重ねて参りたいと存じております。

名曲をたずねて

「節句遊恋の手習」

常磐津 美佐希

三月より生活は一変し、stayhomeが推奨される今だからこそ…この誌面をお借りして名曲をたずねてみたいと思います。先生方はじめ常磐津愛好者の方々にはお目汚しと存じますがお付き合いいただけましたら幸いです。

今回は本年二月十四日「第五回 伝承事業成果発表会」(主催:常磐津節保存会)で演奏されました、「節句遊恋の手習」について紐解いていきたいと思います。私は、この曲を今回初めて聞きましたが演奏されるのが久しい曲と聞いてほっと致しました(笑)この機会に珍しいと言われるこの曲を調べてみたいと思いました。

この曲が世に出ましたのは、一八三三年天保四年の事でした。時代は江戸末期、庶民の芸能が発展した化政時代を経て一番芸能が賑わっていた時代だったのでないでしょうか。そんな中、五世岸沢式佐の襲名披露で発表されたのがこの「節句遊恋の手習」でした。この五世岸沢式佐という方は、三味線の名手でありまして現存の常磐津曲の大半はこの方の作曲です。有名曲として、将門・宗清・乗合船などがあります。また、晩年は自ら太夫としても舞台上に立ち常磐津節に於いて重要な人物とされています。

この、「節句遊恋の手習」は上の巻「節句遊び」下の巻「夕涼み三人生酔」の二部構成となっていて、上の巻に三月桃の節句までの情景が詞章に読み込まれており、下の巻五月端午の節句へ繋がっていきます。

まずこの曲を紐解くにあたり「節句」という文化も私の世代には遠ざかっているモノと思われました。

第80回 常磐津節公演会

日時 令和二年十一月十五日(日)
時間未定

場所 KOKOKA 京都市国際交流会館

御祝儀
子宝三番叟

浄 巴松太夫
三 三賀太夫
上 三 三代太夫
三 三 之三郎

恨葛露濡衣 上

浄 三 三 三 紀
上 三 小 三 都 都 都 秀
三 三 都 有 都 姫 貴 喜 都 貴

恨葛露濡衣 下

浄 一 佐太夫
三 若音太夫
上 綱 若音太夫

夕涼み三人生酔

浄 小 由太夫
三 巴 瑠幸太夫
上 都 一 男太夫
三 都 一 男太夫
上 都 一 男太夫

神路山色 捧

浄 小 都 路
三 美 美 小 一 都 六
上 小 小 美 美 小 一 都 六
三 小 小 美 美 小 一 都 六
上 小 小 美 美 小 一 都 六

油屋酒宴

浄 小 都 路
三 美 美 小 一 都 六
上 小 小 美 美 小 一 都 六
三 小 小 美 美 小 一 都 六
上 小 小 美 美 小 一 都 六

油屋酒宴

浄 小 都 路
三 美 美 小 一 都 六
上 小 小 美 美 小 一 都 六
三 小 小 美 美 小 一 都 六
上 小 小 美 美 小 一 都 六

油屋酒宴

浄 小 都 路
三 美 美 小 一 都 六
上 小 小 美 美 小 一 都 六
三 小 小 美 美 小 一 都 六
上 小 小 美 美 小 一 都 六

油屋酒宴

浄 小 都 路
三 美 美 小 一 都 六
上 小 小 美 美 小 一 都 六
三 小 小 美 美 小 一 都 六
上 小 小 美 美 小 一 都 六

油屋酒宴

浄 小 都 路
三 美 美 小 一 都 六
上 小 小 美 美 小 一 都 六
三 小 小 美 美 小 一 都 六
上 小 小 美 美 小 一 都 六

油屋酒宴

浄 小 都 路
三 美 美 小 一 都 六
上 小 小 美 美 小 一 都 六
三 小 小 美 美 小 一 都 六
上 小 小 美 美 小 一 都 六

そもそも「節句」という文化が中国から伝わったのは奈良・平安時代の頃、中国の陰陽道では一・三・五・七・九の奇数を陽とし、同じ一桁の陽数が重なる時には強い陰をなすとして恐れられており、その為に、一月七日（人日）、三月三日（上巳）、五月五日（端午）、七月七日（七夕）、九月九日（重陽）を五節句としこの日には身を清め、お供えをして、邪気払いを行った。との事。

今まで雛祭り、子供の日、七夕というイベント概念が強くこういった背景を考えず過ぎていたように思います。一月七日においては、お正月に贅沢なものを食べているから胃腸を休めるために七草粥を食べる日と思っていました。お恥ずかしい…。(図1参照)

さて、前置きが長くなりましたが節句遊びの詞章を読んでいきたいと思えます。冒頭：

へ四季の眺めも自ずから五つの節を代々に引く小松の囃子竹の笛 波の鼓も春



図1 七草粥
三代豊国『春遊娘七草』

秋の調べに通う四つの海 へ静けさも空もほのぼのと通り神楽に明初めて豊年祝う鳥追の声も軒端に豊かなる

ここではお正月ならではの風情が読み込まれています。一つ目は「小松引き」。これは、お正月の最初の子日に小松を引き抜き若菜を摘んで遊ぶこととあります。その心は松を引いて、その齡を延ばすという意義があったと言われています。次に「通り神楽」は、太神楽の囃子を表すものですが、太神楽とは、伊勢神宮に奉納する神楽の太太神楽が転じて一般の人が町で獅子舞などの曲芸をすること、これが擬音化され今日の歌舞伎や舞踊の廓の場面での御簾内音楽としても「通り神楽」の名が残っています。最後に「鳥追い」が出てきます(図2参照)。鳥追いは、小正月に子供たちが鳥追い唄を歌いながら鳥追い棒で鳥を追う様子を演じ害鳥に田畑を荒らされないように予祝することが江戸時代に職業化し、編み笠姿に三味線を持った女性が鳥追い唄を歌い祝言を述べる門付け芸になったそうです。これで私は、常磐津「角兵衛」のへ神楽囃して町々巡る がとてもリアルに脳内再生する事が出来ました(笑)

さて、このへ四季の眺めも が冒頭と申し上げましたが、安田文吉先生の論文によりますとこの詞章は変移しておりこの詞章の前に「岸の柳の糸長きさわ水きよき流れかな」といった一文が



図2 鳥追い 三代豊国・国久
『江戸名所百人美女・赤羽根水天宮』

あったそうです。ここには、「岸」「さわ」「糸長き」の語が詠み込まれており、三味線方としての岸沢派の隆盛を祝う詞となっており五世岸沢式佐襲名にふさわしい様に思いますが、現在はこの詞章は語られていません。

さて、この後もお正月らしいお目出度い詞章が続きます。

へ海上遙かに見渡せば七福神の宝船 長閑に風も富貴自在 徳若にこ万歳とは御代も榮えて在します 君が千歳を打ち延へて貢七野の七草に拍子もそろ梅若菜鞠突く羽根突く福引や君にゆかしき春遊び

ここにも随所に「七福神の宝船」、「万歳」、「羽根つき」、「福引」などの江戸時代のお正月の風情が読み込まれています。私は、拍子もそろうの詞章が気になりました。梅若菜といえは有名な松尾芭蕉の句「梅若菜鞠子の宿のころ汁」が頭によぎります。調べてみましたらこの句は元禄四年に詠まれていますので一〇

〇年以上前…五世はご存じだったのではないでしょうか。また、この句は語感が良い事でも知られていますので、それで拍子もそろう？この後の鞠突く羽根突く福引やも語感が良い…もしや芭蕉の句の韻を踏んでいる？といささか考えすぎではありませんが、偉人二人が繋がっているとしたら…と、とてもロマンが膨らみました(笑)

続いて、桃の節句の時期に入っていきます。

へ頃も弥生の雛祭 梢に花を打ち懸けし藤の姿に桜の襲 松の操を立てる雛 妹背を結ぶ松扇に鳴らす合図の爪琴は音も細殿に訪る 茂き馬道の御簾の隙 九重句う桜時 団扇になびく恋風も へ桃や桜の徒らに色香たがい争うて

安田先生の論文によりますと、此処の部分は「源氏物語」花宴の巻の光源氏と朧月夜内侍の出会いを匂わせた二夜の出会いを思わせる詞章とあります。本当にはんなりとした色香漂う詞に、日本語の描写力の高さが際立ちます。野暮ではありませんが、現代語にしたらこんな感じなのではないでしょうか。

「もう季節も三月雛祭。雛人形のように藤の着付けに桜色の打掛を着て、私はどんなに辛い時でも、この檜扇の房が絡まって解けない様に誓って貴方を想っています。奏でる合図の爪琴の音はこの長廊下の先の御簾の隙に届くかしら。こんなに

桜が咲き誇る良い時期なのに貴方には会えなくて、外では無駄に桃や桜が咲き競っている。」解釈が違っていたら申し訳ありません。

そして、曲も終盤に差し掛かります。

へ鶏に恨みの数々も別れて合うて合わせ鶏 ヤツと声懸け己が羽に発矢と受けて妻鳥を蹴爪に掛けて鶏冠の上身振り鳥なき尾傾げもこれぞ互いの責め鼓啼く音羽音の勇ましく 踏歌の節会ぞいさましき

鶏合わせとは、三月三日に雄鶏をたたかわせて勝負を競う遊び(図3参照)で、安田先生の論文には、玉沢版として出版されている正本には鶏合の由来を玄宗と楊貴妃の故事に絡ませて語って、春の夜の男女の出会いと鶏合を関係づけているが現行の詞章には含まれていない。と記されており、実際雛祭りの件も玉沢版は、詞章がかなり長くなっています。更に安田先生は、鶏合の描写には夫婦の怪気の喧嘩を重ねているのであるから玉沢版の詞章の方が分かりやすいとされています。先述の、玄宗と楊貴妃の故事というのを調べましたらこの様な故事でした。〈比翼連理の故事〉楊貴妃の魂魄が玄宗に、七月七日長生殿で、「二人で比翼の鳥、連理の枝になりたい」と誓ったことと、この恨み(思い)は永遠に尽きないだろうと伝えたとされる。

これを読むと、鶏合の詞章も良く分か



図3 三月鶏合の様子『難波鑑』

るように思います。また、安田先生の夫婦の喧嘩を重ねているというのも鶏合の様子と合致するように思います。

そして最後の「踏歌の節会ぞいさましき」という詞章について安田先生はこの様に仰っています。

「玉沢版には『桃花の節会ぞいさましき』とあり、この直前の詞章が『羽音のいさましく』であるから、踏歌の踏む姿を評しているとしても『いさましく』は重複していくとどく感じられる上、踏歌は正月の行事である事から踏歌を当て字としても考えられるがやはり『桃花』であることがふさわしい。」

踏歌(図4参照)とは、中国から伝わった集団歌舞で、足を踏み鳴らして歌い舞うもので、平安時代には宮中の初春の行事として盛行したものの。しかし、現在では大阪住吉神社、名古屋熱田神宮、熊本阿蘇神社、茨城鹿島神宮などの踏歌神事がわずかに面影を伝えている。と言われています。

私も『桃花』の方がふさわしく思いますが、この「踏歌」という消えていくやも

しれない神事をお正月を代表する行事として記し、残す目的があったかもしれないと思えました。

最後に、都昆蔵理事長にこの曲についてお話を伺いました。

「この曲は本当に珍しいもので、私は『常磐津節保存会』ではなるべく上演回数が少ないものをあえて選び、次世代に渡す意味を込めて指導しています。今までも、『芝八景』などを上演してきましたが演奏されないものは難しい曲なんです。難しいというのは演奏者の技量があつて初めて聴かせられる曲という意味ですが、逆に『小夜衣千太郎』などは構成がよく出来ていて、曲のメリハリやノリの緩急も随所にあるので演奏しやすく面白く聴いてもらえます。一方こういう固い目の「節句遊び」のような曲はお客さんに面白く聴いていただくことは本当に難しい事です。でも常磐津は歌舞伎と同じく興行で成り立つものです。ただ単に弾けたり、語ったりしているだけでなく本当の良さを聴いていただくという意識をもって舞台を務めて欲しいものですね。上の巻「節句遊び」の後、下の巻は今年の公演会で演奏する「夕涼み三人生酔」です。大変難しい浄瑠璃ですが、常磐津節でしか表現できないと言つても過言ではない名曲の極みですよ。名人・初代林中のように語れたらと思いますね、これこそ聴かせる芸です。」

貴重なお話を伺いました。私自身、先生から技術や奏法を教わるのが関の山でこの様な機会を頂かないと、中々学術的な事、歴史的な事を勉強するところまでいかなかった事を反省致しました。私なりの記述で間違っている所お目だるい所が多々あつた事と存じますが、最後までお付き合いいただきありがとうございます。また機会を頂けたら色々な曲を紐解いていきたいと思つています。



図4 踏歌
続日本紀-天平一四年(742)正月壬戌「天皇御上大安殿-。宴-群臣。酒酣奏-五節田舞-。詔更令-少年童女踏歌-」〔旧唐書-睿宗紀〕

【参考文献】
安田文吉「五代目岸沢式佐と『節句遊恋の手習』」(1994) 名古屋芸能文化

【出典】
赤坂治績「浮世絵で読む、江戸の四季とならわし」NHK出版新書(2014)
61ページ(図1)、51ページ(図2)

渡辺信一郎「江戸の庶民生活・行事事典」東京堂出版(2000)104ページ(図3)

コトバンク <https://kotobank.jp/word/踏歌> -103168 (最終アクセス2020年6月22日)
『日本国語大辞典』小学館(2006)(図4)

◆協会だより◆

活動記録（令和2年前期）

◆常磐津節保存会 第五回 伝承事業成果発表会

令和2年2月14日（金）
ロームシアター京都サウスホール 15時〜

伝承事業成果発表会

「節句遊恋の手習」

浄瑠璃／常磐津都代太夫、常磐津若音太夫、

常磐津一男太夫

三味線／常磐津都史

上調子／常磐津三之祐

常磐津節保存会

「恩愛贖閨守 宗清」

浄瑠璃／常磐津一佐太夫、常磐津都代太夫、

常磐津若音太夫、常磐津一男太夫

三味線／常磐津都瓦蔵、常磐津都史

上調子／常磐津三之祐

◆令和元年度第三期研修会

令和2年3月24日（火）
京都・都瓦蔵氏稽古場
今期は全五段が演奏されました。

◆常磐津塚法要

令和2年4月4日（土） 正午読経
大阪市東淀川区 寂光寺（江口の君堂）
昨年12月にご逝去されました亜香音氏の
銘板を、お嬢様の美佐希さんが納められ
ました。



◆常磐津一巴太夫 七回忌追善の会

令和2年5月6日（水・祝）京都市立文
化芸術会館にて開催される予定でした常
磐津一巴太夫氏の七回忌追善演奏会です
が、新型コロナウイルス感染拡大の影響
により一年延期され、令和3年5月5日
（水・祝）同じ京都市立文化芸術会館にて
開催される予定となりました。

◆（一社）関西常磐津協会 社員総会

令和2年7月1日（水）
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、
6月4日に予定しておりました社員総会を
延期しての開催となりました。

これから（令和2年後期）

◆第八十回公演会 第二十三回ときわびキッズ 第二回ときわびキッズ

令和2年11月15日（日）

KOKOKA 京都市国際交流会館

公演会演目については一頁をご参照ください

会員異動

〈入会〉

大橋 正和（常磐津都瓦蔵社中）
〔令和元年10月〕

〈異動〉

賛助会員から準会員

遠藤 肇 事 常磐津綱六寿
〔常磐津綱男社中〕
〔令和2年5月〕

休会から正会員復帰

常磐津若音太夫 〔令和2年6月〕

〔退会〕

矢野 敦子（常磐津小欣矢社中）
〔令和元年12月〕

（敬称略・順不同）

ときわびカル子ヤ一
三期生募集中!

浄瑠璃って? ときわび...って??

内容 浄瑠璃と三味線の実技

場所 協会事務所(国立文楽劇場東隣)

受講料 無料

人数 1講座4名迄

期間 2019年4月～2021年3月
月2～3回

持ち物 必要道具貸与

※全講座 修了発表会含む50回

時間帯 応相談

初心者大歓迎!

お問い合わせは協会事務局 FAX、メールにて

TEL:06-6214-0753 / FAX:06-6214-0755/Eメール:info@kansai-tokiwazu.com

